

## 「鉄と鋼」「ISIJ International」投稿規程概要

1. 投稿資格：著者の半数以上が、本会個人会員であること。但し「ISIJ International」は、広く国内外の著者からの投稿を受け付ける。
  2. 原稿の内容：(1)鉄鋼並びに各種材料・プロセスに関連する分野の学術及び技術の発展に寄与するもの。(2)両誌掲載以前に公開刊行物に発表される可能性のないものに限る。但し、本会発行の和文の研究成果報告書の内容を補充完成させた原稿は、「ISIJ International」に投稿することができる。(3)投稿は「鉄と鋼」、「ISIJ International」のいずれか一方のみとする。(4)「鉄と鋼」の原稿は和文、「ISIJ International」の原稿は英文で書かれたものでなくてはならない。
  3. 原稿の種類：(1)論文/Regular article(「鉄と鋼」は原則刷り上がり6頁以内、但し編集委員会が認めれば8頁以内、「ISIJ International」は刷り上がり10頁以内)(2)レビュー/Review(3)寄書/Note(刷り上がり3頁以内)(4)技術報告(「鉄と鋼」のみ/刷り上がり6頁以内)
  4. 投稿の手順：(1)原稿：下記の①から⑧(寄書/Noteの場合、②と③は不要)を完備した正原稿1通、副原稿1通を提出する。副原稿の写真は、鮮明で良質なコピーでもよい。
    - ① Application Form(本会所定のもの)；
    - ② Synopsis(英語で250語以内)；
    - ③ Key Words(英語で数語)；
    - ④ Text(本文)；
    - ⑤ Reference(文献)；
    - ⑥ Appendix(付録)；
    - ⑦ Caption List(キャプションリスト)；
    - ⑧ Figures/Tables(図・表)
- (2)原稿送付先及び連絡先：〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 経団連会館3階  
(社)日本鉄鋼協会 学会部門事務局 編集グループ「鉄と鋼」/「ISIJ International」係  
Tel: 03-3279-6022 (学会部門代表) Fax: 03-3245-1355 e-mail: editor@isij.or.jp
5. フロッピーディスクによる原稿提出：印刷の正確を期すため、著者は、掲載可と判定された原稿を収載したフロッピーディスクを提出することが望ましい。
  6. 校正：掲載号が決定した原稿は、著者による校正を1回行う。この際、印刷上の誤り以外の修正・加筆・削除は原則として認めない。
  7. 別刷り購入の義務：別刷りは有料とし、論文/Regular article、寄書/Note及び技術報告の著者は、最低50部を購入しなければならない。
  8. 著作権の帰属：掲載された記事の著作権は、受付年月日から本会に帰属する。

## 「鉄と鋼」「ISIJ International」執筆要領概要

1. 原稿の長さ：原稿の種類別に投稿規程に定められた刷り上がり頁制限を厳守する。字数換算の目安は以下の通り。

	鉄と鋼	ISIJ International
刷り上がり1頁	約2400字	約1000語
表題・著者名・Synopsis・脚注	約1500字	約500語
引用文献	1件約50字	1件約20語
図	刷り上がり横幅85mm未満(以上)の場合は、刷り上がりの高さ10mmあたり約50(100)字	110mm×84mmの場合、約250語

2. 原稿書式：A4判用紙にワープロで横書きとする。鉛筆書き不可。「鉄と鋼」は1頁：25字×18行、「ISIJ International」は、上下・左右十分余白をとり、ダブルスペースでタイプ打ちする。
  - ① Synopsisは、目的、方法、重要な結果等を、簡潔明瞭に英語で250語以内にまとめ、A4判用紙にダブルスペースでタイプする。(寄書/Noteは不要)
  - ② Key Wordsは、記事内容を表す重要な述語数語を英語で選ぶ。固有名詞以外は小文字で、語間はセミコロンの区切る。(寄書/Noteは不要)
  - ③ 本文の章、節、項、小見出しの記号は、下記の要領に従って表記する。

章	1	2	3
節	1. 1	1. 2	1. 3
項	1. 1. 1	1. 1. 2	1. 1. 3
小見出し	(1)	(2)	(3)
  - ④ 引用文献は、本文中の引用箇所<sup>1)</sup>、<sup>2,3)</sup>、<sup>4-6)</sup>のように、上付き通し番号を付けて示し、本文の最後に頁を改めて、番号順に記載する。執筆者名は全員記載する。雑誌については、和文、欧文にかかわらず英文表記とする。記載例は以下の通り。

例) 1) N.Masuko: *Tetsu-to-Hagané*, 77(1991), 871.  
2) A.Laasraoui and J.J.Jonas: *ISIJ Int.*, 31(1991), 95.  
3) S.Suzuki and K.Suzuki: *CAMP-ISIJ*, 5(1992), 1433.  
4) N.Sano, D.J.Min and T.Wakasugi: Proc. of 6th Int. Iron and Steel Cong., ISIJ, Tokyo, (1990), 279.  
5) W.C.Leslie: *The Physical Metallurgy of Steels*, McGraw-Hill, New York, (1981), 621.  
6) A.D.Rollet, U.F.Kocks, J.D.Embury, M.G.Stout and R.D.Doherty: Proc. 8th Int. Conf. on Strength Metals and Alloys(ICSMA 8), ed.by P.O.Kettunen *et al.*, Pergamon Press, New York, (1988), 433.  
7) 浅井滋生: 第153・154回西山記念技術講座, 日本鉄鋼協会編, 東京, (1994), 89.  
8) 伊丹 淳, 潮田浩作: 鉄鋼の高強度化と信頼性向上, 日本鉄鋼協会編, 東京, (1997), 98.  
9) J.Burke 著, 平野賢一, 堀 仁訳: 金属相変態速度論入門, 共立出版, 東京, (1972), 47.  
10) 第3版鉄鋼便覧, 日本鉄鋼協会編, 丸善, 東京, (1980), 717.
- ⑤ 図・表のキャプションは、引用文献の後に頁を改めて英文で記載する。図・表中の文字も英文にする。
- ⑥ 表はTable、図と写真は区別することなくFigureとして統一し、それぞれ通し番号を付け、本文原稿右余白にその挿入位置を記入する。
  - (a) Table及びFigureは、一つずつA4判の用紙に書き込みまたは貼り付け、右下隅に著者名を記入する。
  - (b) 図は製版に直接使用できるように明瞭に作成する。通常の図は「鉄と鋼」の場合85mm幅、「ISIJ International」の場合84mm幅に縮小印刷されるので、文字の大きさに注意する。
  - (c) 写真はスケールを記入し、厚手のA4判の用紙に貼り付ける。複数の写真よりなるFigureの場合は、それぞれの写真を(a), (b), ……のように示し、写真はスペースを空けずに貼り付ける。
  - (d) カラー写真は論文誌編集委員会が認められたものに限り、著者の実費負担により掲載できる。

(社)日本鉄鋼協会論文誌編集委員会